

「独話」における 女性語の使用・非使用をめぐって

徳井（坂井） 厚子

—はじめに—

ある女子留学生に日本語を教えていた時のことである。彼女の日本語の誤りを直そうとして、その誤りの原因が突然わかった私は、思わず「あ、そうか。」とひとりごとを言った。（当然彼女が目の前で注意深く記憶しているとは思ってもせずに。）ところが数日後、私と話していた彼女は、私に向かって「そうか。」という言葉が頻繁に使ったのである。

「そうか。」という言葉は、女性の独話としては、不自然ではない。しかし実際に目の前に聞き手が存在している時の独話では「そうね。」「そうだわ。」のような女性語で発話しないと、非常に不自然になる。

独話—ひとりごと—は、私たちがふだん何気なく使っている言葉である。しかし、注意深く観察してみると、女性の独話には上の例のように女性語が使われるケースと、女性語の使われないケースがある。そしてこの2つの間には、その使い方において、微妙なニュアンスの違いがあるといえる。この「微妙なニュアンスの違い」とは、何であろうか。女性語の使用、非使用はどのように区別されているのだろうか。

女性語に関する研究は、これまで丁寧さという観点から行われてきたものが多かった。（註1）また、主として対話場面を題材としたものが多く、独話場面を題材としたものは少ない。本来、「聞き手の存在」を前提としないとされる独話の場面において、女性語の使用、非使用がどのように行われているか、それによってどのように「微妙なニュアンスの違い」を区別しているのか、本稿においてはそれぞれのケースについて考察したい。

尚、本稿においては「独話」はいわゆる「ひとりごと」の意味として扱うが、発話される場合以外に、思考内容を表わす心内語も含むものとする。また、本稿では「独話」の題材を主に小説の中にみられる場合を中心にとりあげる。

—独話における女性語の使用・非使用のケース—

女性語の独話の使用と非使用のケースを比較した場合、読み手（聞き手）に与える印象はどのように異なるだろうか。

本節では、独話を「発見」「喜び」など23のタイプに分類し、そのそれぞれについて女性語が使用されている場合とそうでない場合について、検討していきたい。

尚、本稿では女性語の使用されていないタイプをAタイプ、女性語の使用されているタイプをBタイプとする。（註2）

a かけ声、ため息、叫び

<Aタイプ>

- ② よいしょっと!!
- ③ よし/ここで勝負をつけよう。
- ④ 負けるもんか。
- ⑤ やれやれ, やっと着いた。

②～⑤は無意識に発話された女性の独話であるが, いずれもAタイプであり, Bタイプには変換不可能である。こうした無意識に発せられる心内語に近い独話はAタイプに現れやすいといえよう。

b 発見

<Aタイプ>

- ⑥ あった, あった!!
- ⑦ 家が見えた! (三① 112)
- ⑧ あの子だ! 金沢美子のライトバンに乗っていた子!! (子 269)

<Bタイプ>

- ⑨ 「あら」

と茂子が足を止めた。

「明かりがついているわ。」

2人は, 大学の裏門に近い辺りに来ていた。

その1つの窓から光がさしているのだ。(三② 41)

Aタイプの場合, Bタイプの場合と比べ, 緊迫感や臨場感があり, 発見と同時に瞬間的に発話されたという印象を聞き手(読み手)に与える。また, 無意識的な心内語に近い。Aタイプは, 「発見」という出来事が発話の場に与える影響が大きく, 重大であるという印象も与える。

これに対し, Bタイプの場合, 発見そのものが発話の場に与える影響は小さく, 発見の瞬間時に発話したというより発話時と発見時の間にはズレがあり, 内容を確認しているという印象を与える。

C 思い出し

<Aタイプ>

- ⑩ あ, そうだ——夕里子は起き上がった。ルームサービスの盆を廊下へ出しておくんだ。忘れてた。(三② 93)
- ⑪ そう——ここは殺人現場だったんだ。(三② 178)
- ⑫ 「あ, そうか。」と, 例の爆弾事件のことを思い出す。(三② 178)

<Bタイプ>

- ⑬ そうだわ。確かあの時は家に誰もいなかったんだわ。

C「思い出し」は, b「発見」同様, Aタイプの場合, 緊迫性や臨場感があり, また思い出した瞬間時に発話され, 内容も重要であるという印象を与える。また, 無意識的な独話が多い。これに対し, Bタイプの場合, 緊迫性や臨場感はなく, 思い出した時点と発話時の間には隔たりがみられる。Bタイプの場合, 「思い出し」というより「回顧」に近くなるといえる。

次のようにAタイプとBタイプが同時にあらわれる場合もある。

⑭ あ、そうだ。今日、ピアノのレッスンだわ。

これは、思い出した瞬間をAタイプで、その後内容を確認するさいにBタイプで発話したためと思われる。

d 回顧

<Aタイプ>

⑮ あのところは楽しかった。

⑯ 子供の頃、よくここで遊んだっけ。

<Bタイプ>

⑰ あの頃は楽しかったわ。

⑱ 子供の頃、よくここで遊んだものだわ。

Aタイプの場合、無意識的な心内語に近いが、Bタイプに変換した場合、聞き手を意識した独話となる。

e よろこび

<Aタイプ>

⑲ 嬉しい!!そうします。(三① 149)

⑳ パパに会える!(子 286)

㉑ 三日も休める!(三③ 14)

㉒ やった!(作)

<Bタイプ>

㉓ 嬉しいわ。

㉔ パパに会えるわ。

㉕ 三日も休めるわ。

㉖?やったわ

Aタイプの場合、喜びの感情がストレートに聞き手(読み手)に伝わり、よろこびの感情の程度も大きい。また、瞬間的な発話であり、臨場感もある。これに対し、Bタイプに変換した場合、聞き手を意識し、発話内容について改めて確認している、という印象を与える。また、「やった!」のような無意識的な心内語に近い独話の場合、Bタイプに変換すると非常に不自然な独話となる。

f 感心

<Aタイプ>

㉗ すごい!!世界新記録だ。

㉘ このレポートを一日で仕上げちゃうなんて、偉いなあ。

<Bタイプ>

㉙ 律子がああして頑張っているのも、本来の性格もあるだろうけれど、弟がいる、というのも大きな支えになっているはずだ。本当によく頑張るわ。(子 242)

Aタイプの場合、発話者の感情が聞き手(読み手)にストレートに伝えられ、感心の程度も高い。また、臨場感もある。これに対しBタイプの場合は、発話者の感情がより客観的にとらえられ、コメント的な印象を与える。Aタイプが無意識的な独話であるのに対し、Bタ

イブは聞き手をより意識した独話といえよう。

g 安堵

(合格発表の掲示板で)

③⑩ よかった。受かったた。

③⑪ よかったわ。佐藤さんも受かったわ。

③⑩はAタイプ、③⑪はBタイプである。③⑩の場合、発話者は自分自身の合格に安堵していると考えられる。また、安堵の気持ちがストレートに伝わり、無意識的な心内語に近い。これに対し、③⑪の場合、合格したのは発話者自身でなく、第三者であり、発話者は第三者の合格に安堵している。また、③⑪は聞き手を意識した独話である。このように、AタイプかBタイプかによって感情の対象の促え方が異なってしまふ。(ただし、第三者を自己同一化してとらえた場合、Aタイプも可能である。また、自己を客観化してとらえた場合には、Bタイプも可能である。)

Aタイプは感情を主観的にとらえているのに対し、Bタイプは客観的にとらえている、といえよう。

h あきれ

<Aタイプ>

③⑫ あれか、と呟いた。(子 310)

<Bタイプ>

③⑬ あれがきつとカッコいいと思ってるんだわ、本人は！(子 85)

Aタイプの場合、無意識的な心内語に近い。これに対し、Bタイプの場合は聞き手を意識し、言いきかせているような独話である。

i 驚き

<Aタイプ>

③⑭ ああ、びっくりした…私のこと、驚かすんだもの。(三① 52)

③⑮ へえ、いろんな家庭があるんだな。

③⑯ ママも、家を出て行っちゃった！(子 17)

<Bタイプ>

③⑰ 後ろからおどろかすんだもの。あの時はびっくりしたわ。

③⑱ いろんな家庭があるのね。

③⑲ ママも、家を出て行っちゃったわ。

Aタイプの場合、Bタイプと比べると発話者の驚きがストレートに伝わり、臨場感がある。また、③⑭と③⑰を比較するとわかるとおり、Aタイプの場合、発話者が驚いた時点と発話時が同時であるのに対し、Bタイプでは隔たりがみられる。g.にもみられたように、Aタイプの場合、主観的にとらえているのに対し、Bタイプでは客観的にとらえているといえる。

j 恐怖

<Aタイプ>

④⑩ こわい!! たすけて〜。

④⑪ キャー 幽霊だ〜。

Aタイプの場合、これまでみてきたケースと同様、感情表出がストレートであり、恐怖の

インパクトが大きく、臨場感がある。一方、Bタイプに変換した場合、発話者の恐怖感はストレートに伝わらず、またインパクトも弱く、不自然な独話となる。

④②?こわいわ、たすけて〜。

④③?キャー、幽霊だわ。

④③の場合、「恐怖」というよりは「驚き」に近くなるといえよう。

k 怒り

<Aタイプ>

④④ 全く何を考えてんだろ、最近の大人は。(子 280)

④⑤ あのボールを角谷って刑事の頭だと思って打ってやれ!! やっとピッチャーが投げて来る——これでも食らえ!! (子 300)

④⑥ これを片づけるなんて! ——考えただけでも疲れてくる。(子 38)

④⑦ 来るもんなら、来てみやがれ! 少々女の子らしからぬ調子で呟いたのである。(子 280)

これまでみたAタイプは普通体のスタイルで現れるケースが多かったが、「怒り」の場合、「らんぼう体」が用いられるケースが多い。そうすることによって一層インパクトの大きい印象を聞き手(読み手)に与えているといえよう。一方、Bタイプに変換すると、「怒り」のインパクトが小さくなり、やわらげられた感じになって、「怒り」というよりはむしろ、事態を客観的にとらえた「困惑」に近くなる。また、Aタイプが無意識的な心内語に近いのに対し、Bタイプは聞き手を意識した独話という印象を与える。

<Bタイプ>

④⑧ 全く何を考えているのかしら。最近の大人は。

④⑨ あのボールを角谷って刑事の頭だと思って打ってやればいいわ。やっとピッチャーが投げて来る——?これでも食らえばいいわ!!

④⑩ これを片づけるなんて! ——考えただけでも疲れて来るわ。

④⑪?来るもんなら、来てみたらいいわ。

l 困惑

<Aタイプ>

④⑫ このままじゃだめだ。(三① 136)

④⑬ 大変なことになった!

④⑭ どうしよう。パジャマ姿である。(三① 228)

④⑮ 参ったなあ、と夕里子は頭をかいた。(三② 46)

<Bタイプ>

④⑯ このままじゃだめだわ。

④⑰ 大変なことになったわ。

④⑱ どうしようかしら。パジャマ姿である。

④⑲ 参ったわ、と夕里子は頭をかいた。

Aタイプの場合、無意識的な独話に近い。これに対し、Bタイプは聞き手を意識した独話という印象を与える。

また、Aタイプの方がBタイプよりも困惑の程度が大きく、独話内容の、発話の場に加え

る影響が大きい。例えば、次の⑥⑩と⑥⑪を比較した場合、その違いは明らかである。

⑥⑩ (出国前の手続きで)

パスポートを忘れた。大変なことになった。

⑥⑪ パスポートを忘れたの。大変なことになったわ。(でも、すぐに取りに行けば、間に合うわ。)

⑥⑩はAタイプであるが、パスポートを忘れたことの重大性が強調されている。すなわち、発話内容が発話者、発話の場に与える影響はきわめて大きいといえる。また、これはパスポートを忘れた本人自身の独話である。これに対し、⑥⑪はBタイプであるが、⑥⑩と比べ、パスポートを忘れたことの重大性があまり強調されていない。また、パスポートを忘れたのは発話者自身ではなく、第三者という印象を与える。このように、Bタイプに変換することにより、感情の主体が異なってしまう場合がみられる。

また、⑤④から⑤⑧への変換の例にみられるように、Aタイプでは「困惑」であるが、Bタイプに変換することにより、「戸惑い」に近くなる場合もある。

m 戸惑い

<Aタイプ>

⑥⑫ アイスクリームとシャーベットと、どっちを食べようかな。

⑥⑬ どうしよう。どっちへ行こうか。

<Bタイプ>

⑥⑭ アイスクリームとシャーベットと、どっちを食べようかしら。

⑥⑮ どうしようかしら。どっちへ行こうかしら。

Aタイプの場合、無意識的な心内語であるが、Bタイプに変換すると、聞き手を意識した独話となる。また、Bタイプの場合、「戸惑い」というよりは「迷い」に近くなる。

n 確信

<Aタイプ>

⑥⑯ でも——パパの声だった！そして冗談じゃなかったんだ。大体パパは、真面目で、冗談なんていう人じゃないんだから。(子 12)

⑥⑰ 間違いない。金額は300万円だ！(子 43)

⑥⑱ もちろん何をするとって——おしゃべりとか、マンガを読むとかに決まっている!! (子 199)

⑥⑲ とてもだめだ。そんなこと、できっこない!! (子 51)

<Bタイプ>

⑦⑰ でも——パパの声だったわ。そして冗談じゃなかったんだわ！……

⑦⑱ 間違いないわ。金額は300万円だわ。

⑦⑲ もちろん何をするとって——おしゃべりとか、マンガを読むとかに決まっているわ。

⑦⑲ とてもだめだわ。そんなこと、できっこないわ。

Aタイプの場合、Bタイプに変換した場合と比べると、発話者の、内容に対する確信度が高いといえる。Bタイプの場合、聞き手をより意識し、内容について改めて確認しているという印象を与える。Bタイプは「確信」というよりむしろ、「確認」に近いといえる。

次の例は、AタイプとBタイプが同時に現れているケースだが、Aタイプの方がBタイプ

に比べ、確信度が高いのがわかる。

- ⑦④ ……で、手錠か何かかけられて、連行されて外でのんびりお食事とか……ばれたら国友さんはクビ、私は退学だわ、きっと。でも——ふと真顔になって、夕里子は赤電話に向かっている国友の背中を眺めた。

いくら国友さんが若いって私とは違う。(三① 64) (——はAタイプ、~~~~はBタイプを示す。)

また、次の例からは、Bタイプが「確信」というよりむしろ「推測」に近くなっていることがわかる。

- ⑦⑤ 茂子が辞めた理由を訊かれもしないうちに、言うのが何だか変だ、と夕里子には思えた。——きっと本当の理由を知ってるんだわ。(三① 112)

o 確認

「確認」は次のようにBタイプに現われやすい。

- ⑦⑥ 人を殺す？ 殺すって言ったわ、この人(三③ 181)

- ⑦⑦ 確か次が東京駅だわ。

しかし、Aタイプに変換すると「確認」というよりむしろ「確信」に近くなってしまふ。(逆については、n. 確信において指摘されている)

- ⑦⑧ 人を殺す？ 殺すって言った、この人。

- ⑦⑨ 確か次が東京駅だ。

以上から、「確信」はAタイプに、「確認」はBタイプに現れやすい、ということがわかった。

p 納得

<Aタイプ>

- ⑧① そう。結局は私と先生の二人の責任なんだから。逃げることはできないのだ。(子 7)

- ⑧② 現実はそのそんなに甘くないんだ。(子 299)

<Bタイプ>

- ⑧③ 幸福というのは、割合に身近なところにあるんだわ。(三① 138)

- ⑧④ 盗み聞きだわ、これじゃ。こんなことしてちゃ、いけないんだわ。(三③ 181)

- ⑧⑤ 色々と予定もあるのよね、と呟く。(三③ 239)

Aタイプの場合、無意識的な心内語に近いが、Bタイプの場合、事態をより客観的にとらえたコメント的な独話といえる。Bタイプの場合、発話者自身が自分自身を聞き手として言いかせているような印象を与える。

q 決意

<Aタイプ>

- ⑧⑥ これが通用するかどうかは、やってみなきゃわからない。でも、とにかくやるしかないのだ。(子 165)

- ⑧⑦ とにかく当たって砕けろ、だ。(三① 74)

- ⑧⑧ よし、やってやれ、と決意した。(三① 82)

- ⑧⑨ 大人なんて信用するから、こんなことになるんだ。もう——誰も信じるもんか。(子 109)

- ⑧⑩ 今だ！(三① 82)

「決意」は、Aタイプに多く現われる。この場合、発話者の決意がかなり固く、緊迫性、臨場感がある。また、⑧7, ⑧8にみられるように、「らんぼう体」が使われる場合も多いが、その場合、インパクトが非常に強い。また、Aタイプの場合、すぐに実行にうつすという緊迫性がみられる。

しかし、次のようにBタイプにした場合、インパクトが弱くなり、「決意」としては非常に不自然な独話となる。

⑧1?……でも、とにかくやるしかないわ。

⑧2?よし、やってやるわ。

⑧3?……もう——誰も信じないわ。

Bタイプの場合、「決意」というよりは「聞き手への宣言」に近い。また、⑧9のように緊迫性のある独話は、Bタイプに変換すると、緊迫性がなくなり、「決意」の独話としては不適切になる。

⑧4×今だわ!

r 意志

<Aタイプ>

⑧5 そんなことだけは、したくない! (子 52)

⑧6 そんなパパが、もしTVで私たちを見たら、どんなに苦しむだろう。そんな残酷なことできない!! (子 79)

⑧7 これ、やってみよう。

<Bタイプ>

⑧8 そんなことだけは、したくないわ。

⑧9 ……そんな残酷なこと、できないわ。

⑧10 これ、やってみようかしら。

Aタイプは、発話者の意志の強いことを示している。しかし、Bタイプに変換すると、やわらいだ感じになり、発話者の意志が弱くなる。また、Aタイプが無意識的な心内語に近いのに対して、Bタイプは聞き手を意識した独話といえる。「決意」と異なり、「意志」の場合、Bタイプに変換しても不自然な独話とはならない。

s 推測

<Aタイプ>

⑧11 多分明日は晴れかな。

⑧12 来年は今年より少し忙しくなるかな。

⑧13 この服、ちょっと大きすぎるかな。

<Bタイプ>

⑧14 多分明日は晴れるかしら。

⑧15 来年は今年より少し忙しくなるかしら。

⑧16 この服、ちょっと大きすぎるかしら。

⑧17 これでなきゃ、TVの世界では生きていけないのかもしれないわ。(子 77)

Aタイプの場合、無意識的な心内語に近いが、Bタイプの場合、聞き手を意識した独話といえる。

t 期待

<Aタイプ>

- ⑩⑧ 明日は晴れるといいな。
- ⑩⑨ 宝くじあたるといいな。
- ⑩⑩ ヨーロッパに行ってみたい。

<Bタイプ>

- ⑩⑪ 明日は晴れるといいわ。
- ⑩⑫ 宝くじ当たるといいわ。
- ⑩⑬ ヨーロッパに行ってみたいわ。

s. 推測の場合と同様、Aタイプは無意識な心内語に近い。これに対し、Bタイプは聞き手を意識した独話といえる。

u 義務

<Aタイプ>

- ⑩⑭ 明日までに、これを仕上げなきゃ。
- ⑩⑮ 乗り物がないから、そこまで歩いていかなきゃ。

<Bタイプ>

- ⑩⑯ 明日までに、これを仕上げなきゃいけないわ。
- ⑩⑰ 乗り物がないから、そこまで歩いていかなきゃならないわ。

Aタイプの場合、緊迫性があり、行為の遂行に対する義務の程度が大きいという印象を与える。しかし、Bタイプに変換した場合、Aタイプに比べ、やわらげた印象になり、義務の程度も小さくなる。また、Aタイプは無意識的な心内語に近いのに対し、Bタイプは聞き手を意識した独話となる。

v 評価

<Aタイプ>

- ⑩⑱ 5分で全部暗記しちゃうなんて、大したもんだ。
- ⑩⑲ だからAさんは皆から信頼されてるんだ。

<Bタイプ>

- ⑩⑲ 5分で全部暗記しちゃうなんて、大したもんだわ。
- ⑩⑲ だからAさんは皆から信頼されているんだわ。

Aタイプの場合、無意識的な心内語に近いが、Bタイプに変換した場合、聞き手を意識した独話になる。聞き手の存在を前提とするコメントの性質上、「評価」ではBタイプの方が現れやすいといえよう。

w 疑問

<Aタイプ>

- ⑩⑳ ん？ お姉さん、椅子の上に立って何してんだろ？ (三③ 15)
- ⑩㉑ あれ？今日は加藤さんが来ていないけど、どうしたのかな？
- ⑩㉒ このアパート、さっきもここにあったのかな。

<Bタイプ>

- ⑩㉑ もう——出て行ってしまったのかしら？ (子 216)

⑫⑥ ……となると、家の中の物、一切合切——TVや冷蔵庫なんか、みんな持ってっちゃうのかしら？（子 44）

⑫⑦ このアパート、さっきもここにあったのかしら？（三① 201）

A, Bともに女性の独話として自然であるが、Aタイプは無意識的な心内語に近いのに対し、Bタイプは聞き手を意識している独話といえよう。

以上、女性の独話における女性語の使用・非使用の状況を23のケースに分けて考察した。表にすると次のようになる。

表1

	Aタイプ	Bタイプ
a かけ声, ため息, 叫び	○	—
b 発見	○	○
c 思い出し	○	? 回顧
d 回顧	○	○
e よろこび	○	○
f 感心	○	○
g 安堵	○	○
h あきれ	○	○
i 驚き	○	○
j 恐怖	○	? 驚き
k 怒り	○	? 困惑
l 困惑	○	? 戸惑い
m 戸惑い	○	? 迷い
n 確信	○	? 確認, ? 推測
o 確認	? 確信	○
p 納得	○	○
q 決意	○	? 宣言
r 意志	○	○
s 推測	○	○
t 期待	○	○
u 義務	○	○
v 評価	△	○
w 疑問	○	○

以下、AタイプとBタイプの特徴を整理する。

Aタイプの特徴（女性語非使用の場合）

1. 全般的に、無意識的な心内語の独話に現れやすい。また、対話場面では現われにくい。
2. 特に感情表出の独話の場合、発話者の感情が聞き手（読み手）に与えるインパクトが大きい。
3. 事態を主観的にとらえ、臨場感がある。
4. 発話時と出来事時が一致しているケースが多い。
5. 発話（独話）内容が発話（独話）の場に与える影響が大きい。

Bタイプの特徴（女性語使用の場合）

1. 一般的に、聞き手を意識した独話に現われやすい。また、独話のみならず、対話場面においても現われやすい。
2. Aタイプと比べ、聞き手（読み手）に対するインパクトが小さく、やわらげた印象を与える。
3. 事態を客観化して促えた、コメント的な印象を与える。
4. 発話時と出来事時に隔たりがみられることが多い。
5. 発話（独話）内容が発話（独話）の場に与える影響が小さい。

—おわりに—

独話は本来、「聞き手」の存在を前提としないもの、とされている。

しかし、女性の独話には、これまでみてきたように、Aタイプのような無意識的な心内語に近い独話の他に、Bタイプのような「聞き手」を意識した独話も存在する。そしてこの2つのタイプの独話は異なった性質をもっている。この二種類の女性の独話は、コンテクスト、感情等により、使い分けられているといえよう。ある意味で、女性語はこの独話のケースにみられるように、バイリンガルである、と言えるかもしれない。

註

- 1) 鈴木 1989, 1993, マグロイン・花岡 1993 など
- 2) 白川 (1993) は、「終助詞『よ』の機能」の中で、「終助詞」のつかない文を「はだか終止形」と名付けた。氏によれば、一時的な独白や独り言めかして言う場合、一方的にいいわたくし場合がこれに含まれるとし、はだか終止形の特徴を「当該の文が、何らかの意味で聞き手目当て性を失って、その結果、話し手—聞き手の相互作用たる対話文の性質を逸脱している」としている。
本稿においては、女性の独話を対象として考察をすすめるが、女性語の用いられないAタイプと、白川の定義する「はだか終止形」は形式的に類似しているといえる。

参考文献

- 川成美香 1993, 「依頼表現」『日本語学』12—6
 マグロイン・花岡直美 1993, 「終助詞」『日本語学』12—6
 森山卓郎 1989, 「認識のムードとその周辺」『日本語のモダリティ』, くろしお出版
 白川博之 1992, 「終助詞『よ』の機能」『日本語教育』77号
 鈴木 睦 1989, 「聞き手の私的領域と丁寧表現——日本語の丁寧さは如何にして成立つか」『日本語学』8—2
 ———— 1993, 「女性語の本質——丁寧さ, 発話行為の視点から——」『日本語学』12—6
 高橋みな子 1994, 「男ことばと女ことば」『異文化理解とコミュニケーション』三修社
 Tannen, D. 1990 *You Just Don't Understand*, New York.

用例出典

- (三①) 『三人姉妹探偵団①』赤川次郎 講談社
- (三②) 『三人姉妹探偵団②』同上
- (三③) 『三人姉妹探偵団③』同上
- (子) 『子家庭は危機一髪』赤川次郎 新潮社